

和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

2025
4.1

49号

巻頭言……………1 / 公開講座：見沼たんぼ首都高ビオトープ見学……………2～3 /

会員だより……………4 / 和名倉山ワーク……………5 / 年間スケジュール……………6

自然の中で過ごす若者の成長の魅力

理事長 高岡正彦

2024年8月埼玉県NPO活動促進助成事業の下、株式会社小山本家酒造よりみどりと川の再生環境保全事業として支援をいただき、第1回旧三峰分校事業を成功させることができました。今年もさらにパワーアップして第2回を行う準備をしています。

第1回では高校生11名が参加して木工加工をメインに行ないました。この材料は、秩父市有林の間伐材で、社会福祉法人ふらわあ事業所から購入しました。普段は薪として販売している物を木工加工したいということで丸太のまま提供してもらいました。木工加工では大鋸(オガ)を使ってもらいました。「おがくず」という言葉は大鋸で切る時の木くずのことをいうのです。更に、助成金で購入したベルトサンダーを使い仕上げの加工もしました。初めて体験する事ばかりなのに、夢中になって取り組んでいました。

食事の支度も彼らに任せました。小麦粉を練ってうどんにして、外の囲炉裏で煮込んだのですが、火をつけるのも、絶やさないようにするのも楽しそうでした。

このような若者達の夢中な取り組みが、若者達の成長につながると思っています。そして、自然保全活動の仲間にな

ると信じています。自然の中で過ごす人間は皆、裸も同然です。若者達は身体で感じ、吸収するのだと思います。旧三峰分校の周辺には自然がたくさんあります。標高が975mであることも魅力です。しかし、いま流行りのグランピングのようなお膳立てされた施設ではありません。むしろ、不自由ばかりの古い施設です。だからこそできる事があります。キャンプファイヤー用の薪はみんなで作りましょう。間伐材や落ち葉を集めてイセンセントホテル(昆虫や微生物などが過しやすい場所)を作ってみましょう。どんぐりを拾い苗木を作り植林に繋げるのもいいでしょう。星空観察もできるでしょう。色々な提案を期待しています。

第2回のために、すでに、いくつかのNPOや社会貢献活動推進団体から問い合わせをいただいています。我が会で提供できることはわずかですが、協力してできることはたくさんあると思います。大袈裟なことではないですが、皆で工夫して実現させる事こそが、成長というのだと思っています。

私は、長年、高校で山岳部の指導を行ってきました。指導の目的は、体力をつけること、登山技術を学ぶこと、山城を

研究すること、気象を把握することが基本ですが、特に「全員がレギュラー」であることを強調しました。補欠はいません。誰でも皆、得意不得意があります。それらを全て汲んで、パーティーが出来る上り、山行が成功するのです。

独りよがりの行動では楽しめません。頼りきっても喜ばれません。大きな自然に皆で取り組んでいる事こそが成長の魅力として残るのだと思います。そしてチームワークを作れることは人として、最大の能力です。

会員等の皆様で、スタッフ(ボランティアですが)として力をお貸しいただける方も歓迎です。若者達の活動の安全には、最大限配慮しなければなりませんのでよろしくお願いいたします。

◆お知らせ◆

会報は毎年2回発行してまいりましたが、郵送費・印刷費などの経費削減のため、会報の発行を原則年1回とし、必要により臨時特集号を発行いたします。何卒ご理解を賜り、引き続きご協力ご支援くださいますようお願い申し上げます。

公開講座（令和六年十一月十日）

見沼たんぼ首都高ビオトープ見学 （身近な環境の生態系・多様性を知ろう）

理事長 高岡正彦

首都高速道路（株）東京東局

金井直様

首都高速埼玉新都心線の高架下に延長1.7キロ、6.3ヘクタールの「見沼たんぼ首都高ビオトープ」を2007年に整備しました。その後17年間、専門家の指導の下、草刈りやモニタリング調査を続け、フェンスで囲い立入制限しながら、育成・管理を続けています。

（公財）埼玉県生態系保護協会

岩木 晃三様

見沼たんぼ1,260ヘクタール縄文時代は高温期で、ここは海の入江でした。弥生時代に海が退いて、湿地帯になり、1600年頃、徳川幕府時代まで続きました。

1620年代、湿地帯の見沼をため池とするために、川口に八丁堤を造りました。その下流一帯の水田の灌漑揚水としました。百年後、八代将軍吉宗の時代に、享保の改革でコメの増産が図られ、その時に、見沼溜井を田んぼにし、溜井に代わる用水路として見沼代用水が作られました。

1958年 狩野川台風（死者88名行方不明者381名）襲来の際、見沼たんぼは遊水地としての治水機能の役割を果たし、それ以降開発規制地区になっています。

2000年首都高速埼玉新都心線開通。その際、見沼たんぼの自然保全の重要性、治水機能の観点から、高架道路下と環境帯を自然再生することを埼玉県が提案、首都高速道路も前向きに受け入れ、自然と共存するビオトープ作りが決まり、2001年（平成13年）から計画が始まりました。そこから埼玉県生態系協会も参加し、専門家の学者の方、農家の方などたくさんの方と話し合って進められました。

そこで、道路に北側に森をつくり、道路の下・南側は草地とする。所々に池・沼地を作るという計画を立てました。林は、すべて見沼たんぼに自生している在来樹種の種子を集めて、農家さんに預け3年くらいかけて苗木に育ててもらいました。33種類21,500本の苗木を植栽しました。

当時このような、高架道路下に自

然を再生するという事例はありませんでした。日光も遮られて、雨も充てないところで、果たして自然が再生できるのかという疑問は大いにありました。集まってもらった専門家の先生も大丈夫だろうという先生はいなかったです。

自然は人間が思った通りには再生しません。しかも生態系は非常に複雑です。年によっても雨が多かったり、日照りが多かったりです。モニタリングを欠かさずやっています。変化に合わせて、手を加えています。ボランティアを募って、整備しています。

活用面では、今回のような視察を受け入れたり、小中学校・幼稚園の自然観察教室、専門学校・大学の實習なども行なっています。

整備してモニタリング1年目に、キツネを確認しました。見沼たんぼではキツネは絶滅したとされていましたが、キツネは埼玉県平野部の生態系のトップに位置します。

やはり、地域の自然を調査して、それに合った自然の再生計画を立て、計画通りに施工して、モニタリング

しながら、順応的管理することで、キツネのような動物も戻ってくるということだと考えます。

高速道路を作れば、自然破壊を起こすと言われるですが、このように、しっかりと計画を立て、順応的な管理を進め、自然との共存は可能だと考えています。



公財)埼玉県生態系保護協会

主任研究員 中野 浩平様

まずは見沼たんぼ首都高ビオトープにすんでいる生き物を写真で紹介いたします。哺乳類のタヌキが親子で確認されています。鳥類では、カワセミがいます。カワセミは頭とくちばしの形が新幹線のモデルになったそうです。両生類では、ニホンアマガエルや最近少なくなっている絶滅危惧種のトウキョウダルマガエル、爬虫類のアオダイショウもいます。埼玉県では爬虫類のほぼ全種が絶滅危惧です。昆虫類では埼玉県の絶滅危惧種のショウリヨウバッタモドキ、トンボ類ではアオモンイトトンボ、チョウトンボ、アキアカネなどがいます。

ミドリシジミは、「埼玉県の蝶々」に指定されている緑色をした綺麗な蝶で、幼虫がハンノキの葉しか食べません。そのため、ハンノキが無くなってしまうとミドリシジミも居なくなるってしまいます。首都高ができる前は周辺に居たのですが、その後周辺の開発に伴ってハンノキが無くなり、ミドリシジミも居なくなってしまうました。そのため、ミドリシジミを呼び戻すことを目標としてハンノキプロジェクトが始まりました。まずは幼虫が育つ環境づくりのために、ハンノキを育てる事になり、近隣の小中学生に手伝ってもらいま

た。大原中学校と芝川小学校と木崎中学校の3つの学校の生徒に、苗木を育てるために種子を集め、種蒔き、水やりをしてもらいました。ちなみにハンノキは1、2月に花が咲き(小林一茶の句に「ハンノキの せいでも花の つもりかな」と詠まれるくらい地味な花です。)マツボックリのような実をつけます。

育てた苗木を小中学校の生徒がビオトープに植えました。10年前の2014年に植えた時は50cmくらいでしたが、1年間に1mから1.5mほど成長し、現在では10m以上になっています。

これでミドリシジミが生息する条件は整ったのですが、成虫の移動距離は半径200mくらいのため自然に飛んでくることは難しい状況でした。そのため、専門家に伺って遺伝子など生態系として問題ないということを確認した上で、一番近い6km離れた生息地から雄雌を捕獲し、ビオトープに誘致しました。そうしたところ、卵を産んで、成虫となり、サナギとなりミドリシジミが飛ぶところまで確認できました。この先ミドリシジミが増え、近隣のハンノキに、生息地域が広がれば、首都高速道路を核としたミドリシジミのネットワークができると思っています。このようにして生息地が広げられれば、首都高速道路が主体となって実

施したハンノキプロジェクトが、地域の生態系に役立つ成果が生まれると考えています。

また、人の手を加えなければ、維持できない自然もあります。そのために、ボランティア活動を地域の皆様と行ない、きめ細やかな自然の保全を行っています。例えば、池の代掻きによる絶滅危惧種のカワジシヤなどの植物の生育地の環境整備や、ワレモコウなどの生育環境の保全をしています。ワレモコウは草原の植物なのですが、大正時代に国土の10%くらいあった草原は、今では1%未満です。見沼たんぼでも草原の植物がほとんど見られなくなっていました。そういった植物をビオトープに植えることによって、個体保全にもなりますし、地域に再び戻ることも可能になります。その他、ノハラアザミやハナショウブの原種であるノハナショウブが生育しています。植物だけでなく、キタキチョウの保全として、キタキチョウが卵を産むメドハギという植物を保護して、卵を産んでもらっています。

最後に外来種です。これはセイヨウカラシナの写真です。よく堤防などに一面に咲いて綺麗なのですが、セイヨウカラシナだけになってしまいい、ほかの在来種が生育できなくなってしまうため抜き取りを実施しました。



このあとは、散策して、実地観察。そして見聞館で、標本見学。最後に、希少植物の種採取と植え付け体験を行いました。

参加高校生の感想

- 都会の身近な場所で、狐や狸がいるなんて驚きました。
- 貴重な希少な動植物が、高速道路の下で保護されているのにも驚きました。
- 生態系への関心が膨らみました。

会員便り

大洞川惣小屋谷 遡行に参加して

会員 工藤 雅子

今回、下記の経緯にて、大洞川惣小屋谷～源頭湧水～和名倉山での遡行を含む山行へ加えていただきました。

【6月】

バリエーション山行好きな方から仁田小屋の存在を伺い「NPO法人 百年の森づくりの会」ホームページを拝読

【7月】

仁田小屋への宿泊・仁田小屋尾根ルート開拓の手掛かりを探るべく（宝登山神社を好きなことも大）当会主催の宝登山下草刈りに申し込み・参加

【8月】

下草刈り当日に、前日に和名倉山山行（二瀬尾根～将監小屋テント泊～保之瀬天平）をしたことをお伝えしたことがきっかけで、今回の山行&遡行のお誘いをいただく



前の方が工藤さん



連日の猛暑がやっとおさまった曇天のもとでの、クロスバイクでのオフロード感満載な林道移動を楽しんだ後の急登でなかなかハードな道での仁田小屋との初対面は、とても感慨深かったです。こんな容易なアクセスでは無い場所に、こんな立派なログハウスがあるとは！の思いしきりでした。どれ程の労力と思いを注いでの再建だったのだろう…と当時携わった方々へ思いを馳せました。

その後は、皆さんの手慣れたスムーズな連携での、沢からの水を引き込み→料理用の沢水を汲み飲み物を冷やし→調理。小屋付近の祠へのはじめましての御挨拶を兼ねた参拝を済ませた後は、おまじかめの団欒タイムです。ストーブも華麗な火起こしで赤々と燃え、楽しく寛いだひと時はあっという間に過ぎていきました。

2日目の翌日は、いよいよ人生初の遡行です。水陸両用素材の服を着用し、小屋のヘルメットを被り、事前レンタルした沢靴・沢靴下・沢スパッツを装着した後は、ハーネス装着を託しておそろおそろ開始です。熟練者はいともスムーズに進むので自分の歩ける場所を見定めつつ、沢の流れや水量に段々慣れてくると、沢の美しさをじわじわと味わえる様になってきました。

勿論、ありがたきお助けロープ&手！や足掛かりアドバイスと、至れり尽くせりなサポートが終始あってこそです。「こわい、でも、楽しい！」これに尽きました。沢からの景色も含めて、これまでの山行では得ることの出来ない、新しい扉が開いた感覚を覚えました。計画通りの全遡行は叶いませんでしたが、初めての身としては、充実した初遡行を無事果たせて感無量でした。

そして、2日目の団欒タイムは更に楽しく。これは病みつきになるのがわかりました。

何もかもが新鮮で初体験で、あっという間の充実した2泊3日でした。

一部植林された杉檜があるもののすばらしい広葉樹の森と、美しい惣小屋谷と、大勢の手で見事に再建された仁田小屋およびその周辺の居心地の良さ（テラスからの雲取山眺望にうっとり）と。

この先の紅葉・新緑時期の山行も期待が高まりつつ、今度はもっとしっかり役に立てたなと思った次第です。

和名倉山森づくり報告

副理事長 東 克明

2024年度下半期 10月26~27日 第53回ワーク

今回は、和名倉山頂から二瀬尾根にかけてのルート探訪と生態系観察、又生態観察のためのトレイルカメラのデータ回収と新規設置を主な目的とした。

平均年齢70歳の参加者は5名(1名は非会員)。26日鮫沢橋から入山、昼過ぎ仁田小屋着、小屋近くのルート整備と小屋柱に取り付けてあったトレイルカメラのデータ回収。夜はキムチ鍋をつつきながら、山や森の話で盛り上がる。

27日3時起床朝食後4時30分仁田小屋を出発、今日は長丁場になりそう天気も良さそうなので一步一步、仁田小屋尾根標高1,490m付近に生態観察用トレイルカメラ



小屋柱のトレイルカメラ



トレイルカメラ設置

ラ設置、後日のデータ回収に期待。鳥の声は聞こえるが動物系には遭遇しない。仁田小屋ノ頭、松葉沢ノ頭を過ぎ10時40分に和名倉山頂上(2,036m)、頂上手前紅葉が青空に映える、直下の倒木帯小動物には苦でもないが二本足歩行者は通過に苦労。

頂上西苔むすシラビンから二瀬分岐、北ノタルを過ぎて二瀬尾根に、ルートは明瞭。造林小屋跡からは平



頂上での参加者

坦な森林軌道跡をだらだらとすすむ、平均70歳といっても52歳のS会員が下げているだけ、最高81歳で少しずつ足腰にダメージが、それでも16時55分旧埼大山寮に下山、大滝温泉で入浴して帰宅、お疲れ様でした。

第52回ワーク(2024.5.25~26)以後の和名倉での他活動

- 7月27~28日 鈴木会員他が和名倉山仁田小屋尾根における植林作業道調査及び周辺害獣被害調査実施(宿泊:仁田小屋)
- 10月13~14日 高岡会員が仙波尾根~和名倉山~仁田小屋尾根における植生調査・生態観察機器設置(仁田小屋柱)(宿泊:仁田小屋)
- 11月30日~12月1日 高岡会員、鈴木会員他が和名倉山仁田小屋尾根における生態観察データ(1,490mカメラ)収集及び植林資材撤去(宿泊:仁田小屋)
- 2025年1月3~4日 高岡会員が和名倉山仁田小屋尾根における生態観察データ収集及びトレイルカメラ移設(仁田小屋柱⇒イヌブナ平)(宿泊:仁田小屋)



12/1回収 1,490mカメラの映像



2025年 活動スケジュール

活動への参加をご希望の方は、事前に事務局まで御連絡ください。

	総会・理事会	フィールド活動		その他
		和名倉	宝登山	
4月	■会報49号発行 ○4/13(日)常務理事会		◆宝登山 下草刈り作業 日時:4/13(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駐車場広場前	◎福島県田村市植林状況調査 日時:4/6(日)～7(月)
5月	●5/19(月)理事会 場所:さいたま市市民活動サポートセンター	◆第54回和名倉山ワーク 日時:5/24(土)～5/25(日) 集合:8:30/西武秩父駅	◆宝登山 下草刈り作業 日時:5/11(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駐車場広場前	
6月	■第18回通常総会・記念講演会 日時:6/1(日)午後2時00分から 場所:埼玉会館 13:30 開場 14:00～14:50 第18回通常総会 15:00～16:30 記念講演会 16:45～18:30 懇親会 ○6/15(日)常務理事会		◆宝登山 下草刈り作業 日時:6/15(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駐車場広場前	
7月			◆宝登山 下草刈り作業 日時:7/13(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駐車場広場前	
8月				◆第2回三峰森の集い(旧三峰分校事業) 日時:8/5(火)～8/6(水) 集合:8:30/西武秩父駅
9月	○9/28(日)常務理事会		◆宝登山 下草刈り作業 日時:9/7(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駐車場広場前	
10月		◆第55回和名倉山ワーク 日時:10/25(土)～10/26(日) 集合:8:30/西武秩父駅		
11月	●11/17(月)理事会 場所:さいたま市市民活動サポートセンター			◆公開講座 日時:11/9(日) 会場:未定
12月	○12/15(月)常務理事会			

■新会員(会員番号 氏名 住所) 2024.10～

977 工藤 雅子 所沢市

978 森田 茂 所沢市

979 大野 茂次 鳩山町

和名倉百年の森 第49号 2025年4月1日発行

発行者: NPO法人百年の森づくりの会 高岡正彦

NPO法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9階

さいたま市市民活動サポートセンター内 メールボックスA-71

TEL: 080-6567-2152

<http://www.100nen-forest.org> e-mail: info@100nen-forest.org